

ふれあいのまちづくり

ゆうやけの里

第 57 号

令和6年3月31日

発行:恩方地区住民協議会広報部 (公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団
事務局:恩方市民センター内 八王子市西寺方町260-4 ☎ 042-652-3333
FAX 042-659-2776

センターまつり

令和5年10月28、29日に「第26回恩方市民センターまつり」を開催しました。

実行委員会では新型コロナウイルス感染症の5類への移行を受け、流行前とほぼ同じ様式で開催することといたしました。

初日は児童館との共催による「子どもシテイ」を開催しました。

昨年度は子どものみでの参加に制限させていただきましたが、今回は親御さんも一緒に参加していただき、各ブースで楽しんでいる非常に多くの子ども達やご家族の様子に、参加した子ども達だけではなくスタッフ含めみんなが終始笑顔で過ごすことが出来た一日となりました。

このような交流の場を提供できたことをうれしく思います。

2日目の体育室での福祉イベントでは、コロナ渦中に各団体の責任者などがかわり、準備が間に合わず参加を頂けなかった団体もございましたが、その分、各プログラム間の時間に余裕をもった運営が出来ました。

子ども達も練習の成果を遺憾なく発揮してくれて、観客の皆さんから温かい拍手が溢れました。

また、青少年対による標語の表彰はプログラムに組み込まれ、晴れやかな舞台での子どもたちの誇らしい笑顔が印象的でした。



屋外では皆さんお待ちかねの模擬店、フリーマーケットも出店いたしました。以前にも増して衛生管理を徹底してもらい、来場者に安心して楽しんでいただける環境を提供することができましたと思います。

出店者やスタッフの皆さんのご尽力にこの場をお借りして感謝申し上げます。

また今年度は2日間を通して非常に多くの来賓の方が見えになり、恩方の団結力の強さとそれに参加する皆さんの多さ、楽しそうにしている様子にとっても驚いていたことが強く印象に残ったセンターまつりでした。

今後とも恩方地域で核となり、より一層皆さんに楽しんで利用していただける市民センターとなるよう、住民協議会として運営してまいりたいと思います。



まちづくり懇談会

2月25日に「第15回まちづくり懇談会」が開催されました。

当日は八王子市長をはじめ、八王子市役所のまちづくりに関わる部署の方々、地域町会、各種団体の皆様にお越しいただき、70名を超える参加者の中でまちづくり懇談会がスタートしました。

今年度のテーマは、八王子市総合経営部経営計画課の『地域づくり推進事業について』と、はちまるサポート恩方の『事業紹介および活動報告』です。

例年と比べテーマを絞ることで、丁寧に説明する時間を増やすことで理解を深められたと感じます。

『地域づくり推進事業について』では、八王子市が進めている地域づくりと、恩方地区における地域づくりを区分けし、それぞれの地域づくりの特色など理解を深められるように詳しく説明していただきました。

八王子市の地域づくりは、市民の声をもとに描いた『八王子デザイン2040』を基本としたまちづくりを推進しており、市民と市政が力を合わせて取り組むことが大切と考えています。

八王子市の地域づくりの歴史は浅く、令和2年3月に制定されているが、わずか3年の間で長房・川口・みなみ野・南大沢の4つの中学校区に推進会議が設置され、先行する長房・川口中

校区では、地域のありたい姿を実現するための行動計画(地域づくり推進計画)に基づいた様々な取り組みを着実に実施していることに、スピード感をもって進めていることがよく解りました。

現在推進会議を設置している長房・川口・みなみ野・南大沢の取り組みでは、『地域ワークショップ』『みんなの食堂』『マルシェ』などそれぞれの地域にあったイベントを開催することで、特色のある地域づくりの推進を図っていることを知りました。

一方、恩方地区における地域づくりは、少子高齢化や人口減少が進む沿道集落地区の活動向上を目指した住民主体のまちづくりとして、『小津倶楽部』『恩方ベース』『上恩方8町会』『オンガタ銀座商店会』が紹介されました。それぞれ地域の特性を活かした活動を実行し、地域活性化・活力向上に取り組んでいる情報を発信していただきました。

今回の懇談会が恩方中学校区地域づくり推進会議の設置に向けた準備会としての位置づけと説明がありましたが、今後の推進会議設置に向け地域の状況・進展のある意見がたくさん出るとを期待しております。

はちまるサポート恩方の『事業紹介および活動報告』では、八王子市社会福祉協議会が設置した相談窓口で、地域の皆さんが安心して生活できるよ

うに子供から大人まで、「だれでもどんな相談でも聞いて、相談先をつなぐことが仕事であること」をとても分かりやすく説明していただきました。

恩方の相談件数も令和4年度が年間34件に対し、令和5年度1月までで132件と約4倍に増加しました。

近隣のお店や市民センター等コミュニティの場にはチラシを設置し、それを見た近所の方からの情報により輪が広がり、活動の認知度を上げている点で、地域の力がとても重要だと感じました。相談内容についても、スマートフォン

の操作がわからないなどの相談もあるが、そういった案件でもわかる範囲ではちまるサポート恩方が丁寧に話を聞くことで、関係性を築くことを大切にしていました。

どんな内容でも困っている人がいれば耳を傾けるといってお話に心強さを感じました。

ボランティアをしたい、またはボランティアが欲しいなどの話もはちまるサポート恩方で聞いてもらえるようです。

恩方地区住民協議会として引き続き地域と関わってまいります。



古民家からピアノの旅立ち

小津の古民家の片隅に1台のピアノがありました。

自分でもけっこう可愛いと思っていたようです。

ただ、持ち主の女の子がいなくなつてから、永いこと一人ぼっちで寂しい思いをしていました。

7年前に小津倶楽部で家を借り、「おもむろ」と名付けて拠点にしてからもあまり使われることもなく、いつか大勢の人に自分の素晴らしい音を聞かせたいと、じつと待っていました。

ある時、ピアノの存在を知った文化ふれあい財団から、ニュータウンの松ヶ谷に地域の人達がまちづくりの拠点にしている場所があり、ピアノを探しているという声をかけられました。

何度か調律をしてみると、何とか音を出せることが分り、それからほとんどん拍子に話が進み、「コミュニティプレイスまつまる」に嫁入りすることが決まりました。

私は、胸にぼっかり穴が開いたような気持ちと、早く地域になじんでほしいという想いが交錯し複雑な気持ちでした。いよいよ松が谷での地域お披露目の日、私が目にしたのは黒かったピアノが真っ白に衣替えし、周りには子ども達の手形をもとにした様々な動物が描かれ、生まれ変わった可愛らしいピアノでした。

イベントの仕上げに登場したのが、

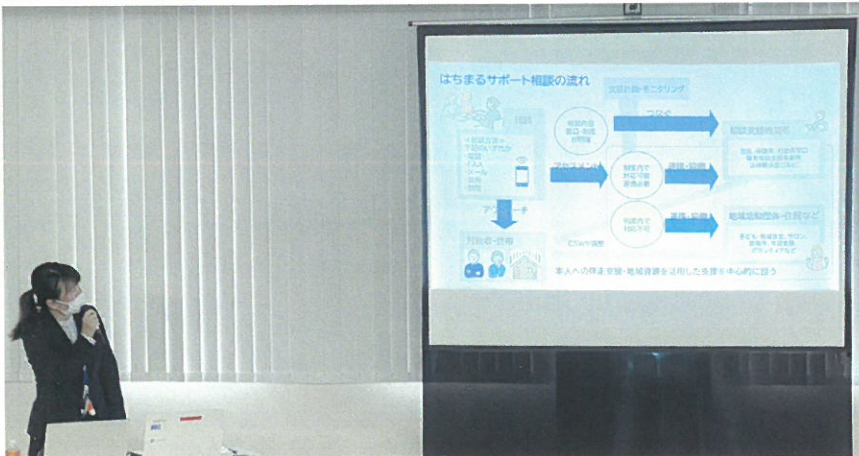
八王子生まれで世界的な盲目のピアニスト梯剛之（かけはしたけし）さんでした。

ピアノの前に座ると指が生き物のように動き、誰もが良く知っているピアノの名曲を素晴らしい音色で聞かせてもらい、ホールの参加者からは感動で惜しみのない拍手が送られました。

私は、ピアノが文字通り小津と松が谷の「かけはし」になってくれたと思いい、花嫁の父の心配はすっかりなくなりました。これからは地域の皆さんに愛され、幸せを届けてくれると確信し、ピアノに大事にしていた女の子の名前「ミチコ」を付け、幸せな気持ちで「まつまる」を後にしました。



右頁町づくり懇談会の様子



「えほんのひろば」

の今までとこれから

「えほんのひろば」をオンガタ食堂の開催日に合わせて行うようになって約二年が経ちました。

始めは、絵本や紙芝居の読み聞かせが中心でしたが、場所を音楽室にしてからいろいろな事に取り組んでいます。まず、ピアノに合わせて歌を歌ってみました。

初めて聞く歌もあったかもしれない。でも、お客さんも声を合わせて歌ってくれました。

元氣な歌声で楽しくなりました。本を参考にしてクイズも作ってみました。

一生懸命考えて目がキラキラ輝いていました。正解だと「やったー。」と盛り上がります。

「赤上げて、白上げて」のようなゲームもしてみました。上手くできる子、ちよつと間違える子、でも、どの子もニコニコ笑顔になっていました。

このように本を中心にしながら楽しみのバリエーションはどんどん広がっています。

そしてこれからもアイデアを出し合っつて、もっともっと楽しい「えほんのひろば」に進化していきたいと思います。是非お立ち寄りください。



岩間 由美さん



平井 香さん



番場 紀代美さん

センター職員さんご紹介
コロナ禍もあり、なかなかご紹介を出来ずにいた、センターの職員さんをご紹介させていただきます。

皆様よろしくお願いたします。